

## 令和7年度第3回図書館協議会（議事録要旨）

日時 令和8年 3月25日(水) 午後2時～

場所 豊明市立図書館会議室

出席 委員（8名） 水野、柴田、原田、尾崎、野々山、黒田、杉原、鈴木  
教育部長、事務局（3名）

欠席 委員（1名） 橋本

傍聴者 2名

### 議題

#### （1）図書館の基本方針について

資料1「図書館の基本方針」に基づき説明。

#### （2）令和8年度図書館事業計画（案）について

資料2「令和8年度図書館事業計画(案)」に基づき説明。

#### （3）「豊明市子ども読書活動推進計画」について

資料3「第2次豊明市子ども読書活動推進計画（案）」に基づき説明。

### 質疑応答等

#### 議題（1）図書館の基本方針について

委員：予算について、本だけではなくビデオやCD、DVDも入っているのか。

事務局：入っている。雑誌や漫画は消耗品で購入している。

委員：システム更新は具体的にどのような更新をするのか。技術的に可能なら検索機で閉架にある本の概要を見ることができるようになるか。

事務局：パソコン等機器類の総入れ替えを行うシステム更新で、図書館システムもバージョンアップしてより使いやすくなる。検索機の画面構成も今と少し違った形になり、内容についてはこれからシステム会社と相談していく。パソコンやスマホで予約を行う時に、実際の本の中は見えないが選んだ本の書誌情報として表紙と本の大きさは確認がとれる。

委員：館内の検索機で検索した時に、閉架にあるという表示画面ではどうか。

事務局：館内の検索機では、本の表紙の画像は出ない。

委員：それがもし見られればよいと思った。

事務局：システム会社と協議していきたい。

委員：本は自分がこの本が欲しいと目的にして行けば検索機で検索できるが、何か面白い本はないかなとか懐かしい本とかを探す時は、どうしても本を見ながら探すので、閉架にどんな本があるか分かれば、もう少し本探しも違ってくと思う。

事務局：その点についても、システム会社と協議をしていきたいと思う。

委員：資料1【主な事業】2-①中学生・高校生が関心を持つテーマを揃えたYA（ヤングアダルト）コーナーを充実する。とあるが、もう少し具体的にどのように充実するのかを伺いたい。

事務局：中・高生向けにYA（ヤングアダルト）の本を購入しており、南部公民館図書室は特に中・高生向きに力を入れて購入している。図書館本館に入ってまっすぐ突き当りのところに本棚を作り、そこを1面YA（ヤングアダルト）コーナーという形にして本を飾っている。令和8年度は数ヶ月に1回特集を組んで、少しでも目について借りてもらえるように考えている。

委員：やはり中・高生の興味は漫画にあると思う。漫画も一昔前と違い、感動するものや読み物としてもかなり優秀なものもある。中・高生が読む興味の入口として漫画もよいと思うが、どうか。

事務局：取っかかりは漫画という時代になってきている。図書館としても漫画を全部否定するものではなく、漫画も力を入れて購入している。本館は小さな子どもたちも読めるドラえもんやコナン、ワンピースのような漫画を揃えている。南部公民館図書室には1棚漫画コーナーがある。貸出禁止でその場で読んで、見たい漫画が無いときは他の本を読んでももらえる可能性も増えるので、特に中・高生向きの漫画をそろえている。

## 議題（2）令和8年度図書館事業計画（案）について

委員：マタニティブックは新規事業なので、対象者にダイレクトに案内を出すなど知ってもらえるPRをするのはどうか。

事務局：新規事業のマタニティブックは子育て支援課の実施する、妊婦やその家族が集まる奇数月のファミリークラスで行う。まだお腹にいるうちから読み聞かせの方法ややり方のポイントを教えていくことを、その事業の中に埋め込む形でスタートしてみたいと思っている。

委員：1（4）夏休み子ども図書館員は小学校高学年対象となっているが、この図書館員は図書館の仕事をやってもらうということか。集まりはよいのか。

事務局：小学校5・6年生を対象に図書館内の見学と、受付業務・図書館の本の修理を体験してもらう。毎年定員が8人で、結構楽しんでもらっている。

委員：もし図書館に興味がある子どもがたくさんいるのなら、図書館員の仕事も興味深いが、読み聞かせのまち豊明と謳っているのなら、読んであげてことを小学生くらい子どもたちにも体験して欲しい。小さい子たちを相手にした読み聞かせ教室みたいな感じで実践を伴ったものがあれば、ちょっと楽しいかなと思った。

事務局：来年に向けて、カリキュラムの中に入れていくかを検討していきたいと思う。

委員：1（9）読み聞かせボランティアの派遣で、派遣にも力を入れていくそうだが、ぜひ保育園にも来てほしい。保育園で第三者の方が読む機会があると、子どもたちもまた違った新鮮な形で受けとめると思うので、園から依頼してもいいのか教えてほしい。

事務局：読み聞かせボランティアの派遣案内を保育園にも出す。

副委員長：読んでビンゴが図書館フェアの中に新しく入っていた。どんな感じのものか。

事務局：読んでビンゴは令和7年度から始めたもので、ビンゴの用紙は大人用子ども用に分かれています。子ども用は絵本の種類、例えばウサギが出てくる本や食べ物が出てくる本というのを9つの枠の中に割り振り、いろんなジャンルの本を読んでもらう。ビンゴを1列、2列、3列とできたらスタンプを押して、スタンプラリーの対象とした。大人用は、図書館の本の分類0類から9類までを各分類ごとに、枠の中に割り振った。参加者は多かったが、実際に商品と交換する人は想定より少なかったので、令和8年度はもう少し工夫しながら進めていきたいと思う。

委員：おはなし会に行ったとかそういうビンゴもあったか。

事務局：そちらは、いろんな行事に参加したらスタンプがもらえるスタンプラリーになる。10・11月の図書館フェアに合わせ、スタンプを文学講座に1個、おはなし会に1個、映画会に1個というふうに、1枚の紙で行事が分かるようにして、図書館行事にできるだけたくさんの方に参加してもらうために配布した。

委員：3 催事（11）おたのしみ会で愛教大の学生のことが出たが、豊明市は桜花や藤田医科大学もあり、関連のある部活やサークルがあればぜひ声かけ等積極的にしてもらいたい。国際交流もイベントがある時に声をかけて手伝いに来てもらっているの、多分興味のある学生はいると思う。

事務局：今の話を参考に、声かけができるようだったらしていきたいと思う。

副委員長：質疑の内容を踏まえた上で、事務局案でよろしいか。

（ 全員挙手 ）

副委員長：全員賛成のため、質疑応答を踏まえた上で事務局案通り、実行していただきたい。

### 議題（3）「豊明市子ども読書活動推進計画」について

委員：関連部署に持っていく話があったが、ぜひこの冊子が配られるだけでなく、その部署の立場ややるべきことを考えて、この施策が生きていくようにしてもらいたいと思う。校長会等で、冊子以外のアンケート結果も現況報告ということで出されてはどうかと思う。

事務局：本当に自分の立場が今どこにあって、どうしていくべきか、他の学校はどうしているのかというのは情報として必要なことだと思うので、計画の最初にとったアンケートを見ながら検討していく形になると思う。

委員：割と大人も絵本で癒される時代になっている。大人が絵本を見て読めるような場所というか、子ども向けだけでなく大人向けの絵本もあるよ。また、障がいをもつ子どもを連れて一緒にこの図書館に来て絵本と一緒に読めるようなそういう場も作っていいなと非常に感じている。せっかく読み聞かせ、子どもに本を読んでもらおうというのであれば、もう少し対象を広げて、そういう子どもたちも親子で楽しめるような、周りを気にしなくてもすむような場があったらいいかと思う。

副委員長：障がいのある人もそれから小さい子どもも、やはりどうしても大きな声が出たりする。図書館のおはなしコーナーは音が外に漏れる。区切っているが、外に音が響いてしまうので、少し何か工夫ができるかと思う。

事務局：建築基準法や消防法的にも扉は閉め切ることにはできない。あとは避難経路、あそこに扉があると部屋から逃げだせないの、部屋自体を改造する

ことは厳しいというのが現状。

委員：鍵のかかるような扉は駄目だがちょっと開閉自由な扉とか、あとは側面に音を吸収するような壁とか、そういうことは難しいのか。

事務局：施設を改造するのは予算も関係してくる話なので、どんな方法があるかは今後も検討していけたらと思う。

教育部長：補足として、我々もいろいろ考え工夫して、お金をあまりかけない形でしていきたいと思う。

委員：核家族化していて地域の人との繋がりもなくなってきた。マタニティの読み聞かせでは、お腹の子どもに読んであげる絵本を紹介するだけでなく、その親が安心して産める、保護者になっていくための心が豊かになっていくような絵本、子育ては楽しいよってという安心できる絵本も保護者にぜひ紹介してほしい。

事務局：子どもに読み聞かせるための絵本と母親になるための心構えというような本の紹介リストを作っているの、ここで紹介できるよう進めていきたいと思う。

委員：ママサポというか生まれたばかりの産前産後のお母さんをお手伝いするボランティアをしているが、真面目なお母さんは赤ちゃんが生まれてこうだったらどうしようと不安なこともあるので、お母さんに渡す本は母親はこうあるべきみたいな感じではなく、楽しいよとか大丈夫だよってという味方をするような感じの本を加えてほしいと思う。

副委員長：歴史民俗資料室に観光バス2台で豊明小学校3年が見学に来た。昨年度も豊明小学校から歴史民俗資料室に見学が来てくれた。二村台小学校は歩いて見学に来たが、予算があるなら他のもっと遠い小学校に観光バスで市内の施設を見学できると周知して、校長先生たちに話してもらえたらと思う。そうすれば図書館に見学に来た子どもたちが、また親と一緒に来ようというきっかけになると思う。

教育部長：予算は各学校にざっくり配分しており、その中でやりくりしている。学校によって違うところに力を入れているので、先ほどの話も学校で共有する機会に、アンケートの話も含め話ができればと思う。

委員：豊明小学校は多分、その学年が違うところの見学や校外学習に行った帰りに寄るような形で、校外学習等と抱き合わせで観光バスを1日借りている状況かと思う。朝そこに寄って、午後からどこかの施設を見学して帰るルートを考えていると思うが、各学校の事情があるので、検討の余地はあると思う。

副委員長：「第2次豊明市子ども読書活動推進計画」案の通りとすることでよろしいか。

( 全員挙手 )

副委員長：全員賛成のため、事務局案の通りとする。